

News release (仮訳)

スイス・リー、2019年上半期の決算を発表：堅調な再保険事業と投資実績を背景に9億5,300万米ドルの純利益を計上

- グループの正味既経過保険料および手数料収入は前年同期比7.9%増の182億米ドル
- 損害再保険(P&C Re)事業の純利益は2.5%増の7億7,100万米ドルを計上。コンバインド・レシオは100.5%、株主資本利益率(ROE)は15.9%
- 生命・医療再保険事業(L&H Re)の純利益は15.3%増の4億5,900万米ドル、ROEは13.1%
- コーポレート・ソリューションズは事業改革の経営措置に伴い、4億300万米ドルの純損失
- ライフ・キャピタルの純利益は500万米ドル、総キャッシュフローは4億6,000万米ドル
- 投資収益率(ROI)は非常に堅調で4.2%、直接利回りは2.9%
- 損害再保険の契約更改に伴い、保険料は年度累計で23%上昇、適正料率は1%上昇
- ウルス・ベアツキが2019年9月1日付でEMEA再保険CEO、リージョナル・プレジデント兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーに就任

チューリッヒ、2019年7月31日 – スイス・リーは、堅調な再保険事業と投資実績を背景に、2019年上半期に純利益9億5,300万米ドルを計上しました。正味既経過保険料および手数料収入は、全事業部門の成長を反映して前年同期比7.9%増の182億米ドルとなり、グループ全体のROEは6.6%でした。

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「当社上半期の業績は、損害保険市場と生命保険市場の双方で当社の再保険事業が堅調であることを物語っています。年初来の良好な契約更改の進展が裏付けるように、規模の大きさ、グローバルなポートフォリオ体制、生命・医療保険事業の多様性、そして顧客へのアクセスを有する当社の戦略的立場が、引き続き収益性の高い成長をもたらすと確信しています。」

2019年上半期のROIは、株式の堅調な運用状況と債券ポートフォリオによる収益を背景に、前年同期の2.6%から4.2%に改善しました。2019年上半期、グループ保有債券の直接利回りは、運用利回りの低下にもかかわらず2.9%と安定していました。

Media Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 7171

New York
Telephone +1 914 828 6511

Singapore
Telephone +65 6232 3302

Investor Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

スイス・リーの資本基盤は依然として極めて強固です。当グループは収益性の高い事業の成長による余剰資本の配分および株主還元を進め、引き続き資本管理の優先課題に注力していきます。2019年5月6日に開始した上限買付価格を10億スイス・フランとする自己株式の公開買付は現在、順調に進展しています。

スイス・リー・グループの最高財務責任者であるジョン・デイシーは次のように述べています。「当社の財務基盤は強固であり、資本を配分しつつ、広範なリスク・プールの下で成長する機会を効果的に掴んでいます。資本コストを継続的にコントロールすることで、規模の経済を働かせ、年間の収益力を強化しています。」

支払備金見積額の増加にもかかわらず、損害再保険事業は堅調

損害再保険事業の純利益は、収益性の高い事業成長と非常に堅調な投資実績を背景に2.5%増の7億7,100万米ドルを計上しました。正味既経過保険料は、大型取引と自然災害保険事業の伸びが奏効して、13.2%増の87億米ドルとなりました。ROEは14.5%から15.9%に改善しました。

2019年上半期のコンバインド・レシオは100.5%でした。引受実績は、市場全体における損害額の大幅な増加とともに、第1四半期の台風21号(チービー)による支払備金見積額増加の影響も受けました。また、オーストラリアで発生した洪水、雹(ひょう)、嵐、そしてエチオピア航空の墜落事故およびその後のボーイング737Max機の運航中止をはじめ、自然災害および人災による損害に伴う本年度の請求額も反映しています。当該事業部門は2019年の標準化後のコンバインド・レシオ98%¹を達成すべく順調に展開しています。

7月の損害再保険の契約更改で保険料のボリュームと価格が上昇

損害再保険契約の保険料ボリュームは年初来で23%増の170億米ドルとなり、そのうち1%は価格上昇によるものでした。南北アメリカを中心とする7月の契約更改において、スイス・リーは17%の保険料ボリュームの増加と2%の適正料率上昇を達成しました。

生命・医療再保険事業は引き続き堅調

2019年上半期の純利益は、積極的なポートフォリオ管理と南北アメリカにおける死亡率の改善が奏効して、15.3%増の4億5,900万米ドルを計上しました。また、良好な株式市場の動向と債券ポートフォリオの実現利益を反映して投資収益率は非常に堅調に推移し、純利益を押し上げました。本年度上半期のROEは、前年同期の11.5%から13.1%に上昇しました。

2019年上半期の正味既経過保険料および手数料収入は、為替差損とライフ・キャピタルとのグループ内再々保険契約の終了により、1.6%減の63

¹前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定

億米ドルとなりました。これら 2 項目の影響を調整すると、正味既経過保険料および手数料収入は 5.2%の伸びとなります。

コーポレート・ソリューションズは経営改革の影響を反映

2019 年上半期、コーポレート・ソリューションズは、事業を再構築する経営改革を実施したことで 4 億 300 万米ドルの純損失を計上し、コンバインド・レシオは 132.8%となりました。正味既経過保険料は 7.6%増の 21 億米ドルとなりました。主な増加要因は保険料率の大幅増と一部の保険種目の伸びによるもので、いくつかの引受ポートフォリオの積極的な削減によるマイナス影響を上回りました。スイス・リーは、2019 年上半期に適正料率が幅広い種目で 9%上昇したことを踏まえて、企業保険向け保険料率における前向きな傾向が今後も継続すると予想しています。

直近の業績不振に対処すべく、コーポレート・ソリューションズは 2019 年第 2 四半期に支払備金を 3 億 2,800 万米ドル積み増しました。加えて、一回限りの保険料 1 億米ドルで損害再保険事業とアドバース・ディベロップメント・カバー契約を結びました。また、当該事業部門は、より一層目標が明確で収益性の高いポートフォリオを今後確実に実現するために、特定種目のリスク・エクスポージャーを積極的に引き下げています。

ポートフォリオの組み替え、それに伴う効率性の改善と保険料率の加速度的な上昇機運が合わさることにより、コーポレート・ソリューションズは、2021 年に目標である標準化後コンバインド・レシオ 98%²を達成し、引受収益性を回復すると見込まれています。企業保険市場に対するコミットメントを明確に示すために、グループはコーポレート・ソリューションズの資本を 6 億米ドル増加しました。

ライフ・キャピタルにおいてオープンブック事業が成長

堅調な投資実績がオープンブック事業の拡大および ReAssure 社を独立事業としてグループから分離させることに関連する費用を相殺し、500 万米ドルの純利益を計上しました。2019 年上半期、当該事業部門は 4 億 6,000 万米ドルの総キャッシュフローを創出しました。主な増加要因は ReAssure 社に対する 10%持ち分の MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社への売却と、ReAssure 社が発行する劣後社債の売却収入によるものであり、ReAssure 社の資本再構成の影響により一部相殺されました。2019 年 7 月 11 日に公表したとおり、ReAssure 社の新規株式公開 (IPO) は英国発行市場の悪化を受けて保留されています。スイス・リーは引き続き、ReAssure 社を連結対象外とするために株式持ち分の減少を目指しています。

2019 年上半期の正味既経過保険料および手数料収入は、オープンブックの生命・医療保険事業の成長、そしてグループ内の再々保険契約の見直しを受けて、33.1%増の 11 億米ドルとなりました。為替変動の影響を除いた

²前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定

場合、オープンブック事業の総収入保険料は 16.8%伸びました。また、iptiQ は EMEA (欧州・中東・アフリカ) で損害保険事業を、オーストラリアおよびニュージーランドで生命・医療保険事業を立ち上げました。

新たな監査法人の選定

2019 年上半期に入札手続きを完了し、スイス・リーの取締役会は 2021 年に向けた当グループの新たな監査法人として KPMG を株主の皆様にご提案する予定です。

ウルス・ベアツキが EMEA 再保険 CEO、リージョナル・プレジデント兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーに就任

必要な規制当局の承認を条件として、2019 年 9 月 1 日付で、ウルス・ベアツキが EMEA 再保険 CEO、リージョナル・プレジデント兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーに任命されました。今月アジア再保険 CEO 兼リージョナル・プレジデントに就任したラッセル・ヒギンボサムの後任となります。ウルス・ベアツキは、直近の 4 年間ではラテンアメリカ再保険プレジデントを務めており、市場におけるスイス・リーの地位を強化するとともに、事業の大幅な成長を実現しました。その任務に就く以前は、マネージング・ディレクター、アメリカ投資・買収部門のヘッドプリンシパルとして、スイス・リーの金融投資および戦略的 direct 投資と企業開発の責任者を務めました。また、それより以前にはスイス・リーの内外で、保険、金融サービス、医療を中心に、M&A およびプライベート・エクイティ関連の様々な役職を歴任しています。

スイス・リーの会長であるウォルター・B・キーホルツは次のように述べています。「ウルス・ベアツキは、金融サービス業界で 20 年以上にわたり広範な専門知識を身に付けた経験豊富なリーダーです。当社が引き続き全事業種目でイノベーションに注力する中、持続的な成長を促す確かな実績を持ち、EMEA における当社事業を新たな高みへと導くにふさわしい能力を備えています。お客様のために事業の継続性を確保すべく、この重要な役職に強力な社内候補を指名できたことを喜ばしく思います。」

今後の見通し

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「当社の再保険部門の力強さが回復したことを大変喜ばしく思っています。コーポレート・ソリューションズに対する経営措置が引受の収益性を回復すると確信しています。さらに、ライフ・キャピタルにおけるオープンブック事業の成長に期待しています。将来的に様々な機会が広がっており、当社は引き続き、株主の皆様魅力的な還元施策を実施するとともにお客様と密接に連携していく所存です。」

2019 年上半期の業績詳細

		2018 年 上半期	2019 年 上半期
グループ連結 (総額)	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	16 830	18 160
	純利益(百万米ドル)	1 006	953
	株主資本利益率(%、年率換算)	6.3	6.6
	1 株当たり利益(米ドル)	3.24	3.19
	投資収益率(%、年率換算)	2.6	4.2
	直接利回り(%、年率換算)	2.9	2.9
	純資産の部 (百万米ドル)	30 051	30 117
	普通株 1 株当たりの簿価(米ドル)	93.09	101.83
損害再保険	正味既経過保険料 (百万米ドル)	7 701	8 719
	純利益(百万米ドル)	752	771
	コンバインド・レシオ(%)	92.9	100.5
	純営業利益率(%)	13.0	11.1
	投資収益率(%、年率換算)	2.1	4.4
	株主資本利益率(%、年率換算)	14.5	15.9
生命・医療再保険	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	6 389	6 284
	純利益(百万米ドル)	398	459
	純営業利益率(%)	9.9	10.9
	投資収益率(%、年率換算)	3.6	4.4
	直接利回り(%、年率換算)	3.3	3.4
	株主資本利益率(%、年率換算)	11.5	13.1
コーポレート・ ソリューションズ	正味既経過保険料 (百万米ドル)	1 918	2 063
	純利益(百万米ドル)	58	-403
	コンバインド・レシオ(%)	101.7	132.8
	純営業利益率(%)	3.8	-21.2
	投資収益率(%、年率換算)	2.2	3.2
	株主資本利益率(%、年率換算)	5.0	-40.5
ライフ・キャピタル	正味既経過保険料および手数料収入 (百万米ドル)	822	1 094
	純利益(百万米ドル)	34	5
	純営業利益率(%)	5.2	6.2
	投資収益率(%、年率換算)	3.4	3.2
	株主資本利益率(%、年率換算)	1.1	0.2
	総キャッシュフロー(百万米ドル) ³	848	460

³総キャッシュフローとは、当該報告期間中にライフ・キャピタル事業部門の営業活動が創出した正味キャッシュの推定値であり、剰余金の推移と特定の資本政策の両方を考慮しています。スイス・リーと MS&AD の各々が保有する ReAssure 社の持ち分を総額で算定した値です。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは世界のレジリエンス向上を目指し、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。自然災害および気候変動、また高齢化社会からサイバー犯罪に至るまで、さまざまなリスクの予想と管理を行っています。スイス・リー・グループの目標は、お客様のために新しい機会とソリューションを生み出し、社会のさらなる繁栄と発展を可能にすることです。1863年にスイスのチューリッヒで創業したスイス・リーは、世界約80拠点にて事業を展開しています。大きく3つの事業部門に分かれて運営を行い、それぞれの事業部門がグループ全体の理念に寄与する独立した戦略と目標を掲げています。